

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

2017年も半分を過ぎてきました。年前半を振り返るとともに、年後半の展望を考えてみたいと思います。

【ドル/円 週足】



2017年は前年のトランプ・ラリーの流れを受け、年初に118円60銭の高値をつけました。

2016年12月にFRBが利上げを実施、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に本年も継続的に利上げが実施されると予想されること、トランプ新大統領の経済政策（大規模なインフラ投資、大幅減税）への期待を背景にドルが上昇するシナリオが市場の大勢を占めていました。

しかし、実際には年初の118円台が今年の高値となり、ドルは軟化し4月には108円13銭の安値をつけています。

ドル安の背景には、米新政権の経済政策実施が遅延していること、シリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりを受けた北朝鮮リスクの顕在化、さらにはトランプ政権のロシアゲート疑惑などが挙げられます。

その後は114円37銭まで値を戻すも、108円81銭まで下落、114円49銭まで再浮上となり、明確な方向性を描けない動きが続いています。

このような状況の中、年後半の展望を考える場合、最も注目すべきは米国の実体経済といえます。

FRBは年内後一回以上の利上げを考えており、さらにバランスシート縮小の開始も確実視しています。FRBの見立てを前提に考えると、年後半のドル/円のメインシナリオは、ドルの緩やかな上昇

ドル/円相場のトレード戦略

となるでしょう。ただし、実際の経済指標はやや斑模様となってきており、市場では米景気拡大に懐疑的な見方もあり、ドルの上値も限られたものとなる可能性が高く、年初の高値 118 円台が意識されるところでしょう。

リスクシナリオとしては、ロシアゲート疑惑や対日貿易政策などトランプ政権発のサプライズの円高が挙げられます。今年安値の 108 円を割り込むような場合には、何か新しい材料が出ている可能性が高く、大幅な円高には警戒する必要があるでしょう。

また、可能性は少ないもののトランプ政権の経済政策が年内に議会を通過し実施めどが立った場合には、ドル急騰というリスクシナリオも念頭に入れておきたいところです。

■ 短期展望

先週は、112 円台前半でスタートし、一時 112 円 87 銭の高値をつけたものの、オバマケア代替法案頓挫の可能性やロシアゲート疑惑の再燃によりドルは軟化し 111 円割れを試す動きとなりました。

今週も、ロシアゲート疑惑にドルの上値が重くなり、また勢いを欠く米経済指標を受け今週の FOMC でこれまでのスタンスが変化するリスクが懸念されます。

ドル/円のロングポジションがたまっているとの指摘もあり、夏休み本格化を前にポジション調整のドル売りが強まるリスクがあり、110 円が支えられるかが焦点となるでしょう。

110 円が支えられれば 110 円～113 円レンジの継続、110 円が割れるようであれば 108 円トライの相場を想定します。